

第六講 「身分」の言葉

★身分の高い人物は『素晴らしくて大切』なイメージ

★身分の低い人物は『みすぼらしくとるに足りない』イメージ

身分が高い類

よし・・・優れている・価値がある・身分が高い・好ましい

貴なり・・・身分が高い・高貴である・上品だ・

気高し・・・身分が高い・上品である

やむごとなし・・・捨ててはおけない・ほうっておけない・格別だ・

身分が低い類

あやし(怪し・賤し)・・・不思議だ・不審だ・卑しい・粗末だ・身分が低い

いやし(賤し・卑し)・・・身分が低い・みすぼらしい・下品だ・心が汚い

言ふ甲斐無し・・・言ってもどうにもならない・取り上げて言う価値がない

賤・・・身分の低いこと・身分の低い者

あし・・・みにくい・みっともない・不快である・卑しい・みすぼらしい

無下なり・・・まったくひどいこと・ひどく身分の低いこと・程度のはなだしい

Ex. いみじくやむごとなく、かたちありさま、物語にある光源氏などのやうに

訳 たいそう高貴で、顔立ちや姿が物語に書いてある光源氏などのようで

あやしき下臈なれども、聖人の戒めになへり

訳 いやしい身分の低いものであるが、聖人の教えに合っている

## 古典単語

### ①ののしる「罵る」(ラ行四段)

「大声で騒ぐ・やかましく音を立てる・勢いが盛  
んである・威勢がよくなる」

※うるさい人って目立つよね？ 目立つってこ  
とは勢いが強いってことも示す。そんな感じ

### ②あきらむ「明らむ」(マ行下二)

「明らかにする・見極める・心の中をあかす」

※漢字の通り、明らかな状態にするってこと。  
自分の心を明らかにする＝心の内をあかすこ  
とだよな？ そんな感じでおk」

### ③ふ「経」(ハ行下二)

「(時間が) たつ・場所を」通る」

※経過と経由のイメージ

### ④さうざうし「索索し」(形シク)

「物足りない・心寂しい」

※あるべきものがなくて、物足りなく、寂しいと  
いう様子を表した言葉。「索」は「索漠」や「索  
然」という熟語を作り「物寂しい」や「空虚」  
な感じを示すんよ

### ⑤ところせし「所狭し」(形ク)

「(物理的・心理的に) 窮屈だ ・ 面倒だ  
(窮屈になるほど) いっぱいだ」

※漢字のまんま。物がたくさんあるところにいる  
と窮屈じゃん。それだけ。

### ⑥あからさまなり(形動ナリ)

「急に・ちよっと・ほんのしばらく」

※物事が満足にできぬうちに終わっちゃう感じ。

「あからさまにもぐず」で「かりにもまった  
く・・・(しな)」「の意になる。

## 例文

①ののしるうちに夜ふけぬ

↓騒いでいる内に夜が更けてしまった

この世にののしり給ふ光源氏

↓世間で評判になっていらっしやる光源氏

②何事なりともあきらめ申さん

↓何事であっても明らかに申し上げよう

嘆かしき心のうちもあきらむばかり

↓悲嘆にくれる心の中をも晴らすほどに

③月日はへにけり

↓月日は過ぎてしまったのだった

④さうざうしき夕暮れなどばかりぞ

↓心寂しい夕暮れなどだけは

権中納言のなきこそ、なほさうざうしけれ

↓権中納言がないことは、やはり物足りない

※係助詞「こそ」があるため、「けれ」と已然系

⑤ところせき御身にて

↓(自由にならない) 窮屈なご身分なので

⑥猪、草中よりあからさまに出でて人を逐ふ

↓猪が草中から突然飛び出してきて人を追う

この所に住み始めし時はあからさまと思ひ  
しかども

↓この場所に住み始めたときはほんのしばら  
くだと思っていたが